

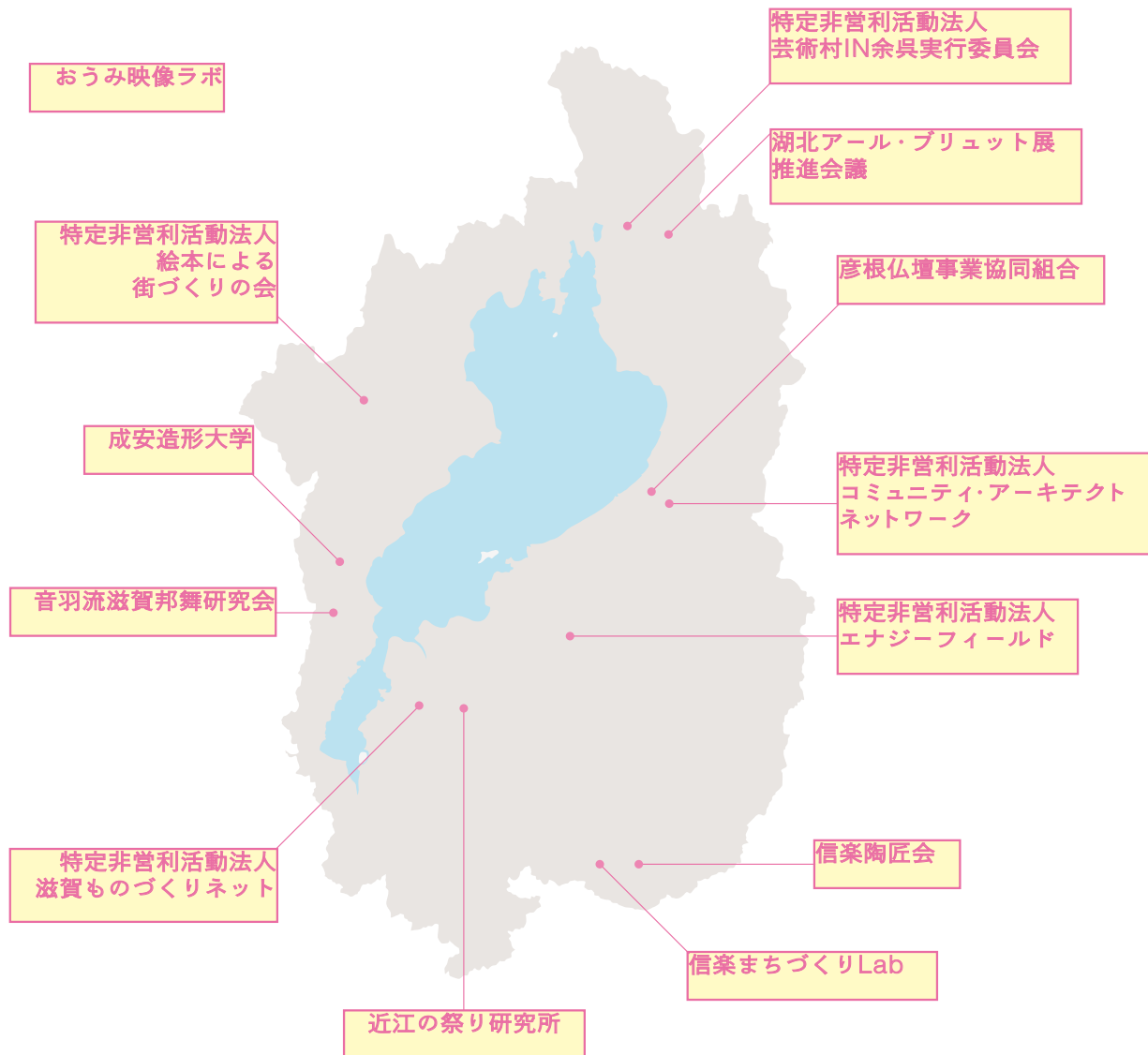
# 「美の滋賀」

創造事業2015年度採択団体

「美」を通じた地域づくりを推進している地域の元気創造・暮らしアート事業として、2015年度には13団体が採択されています。13団体の中には、土地に根ざして地域資源を掘り起こしているような活動もあれば、拠点を定めることなく、ある一定の視点で滋賀各地を再編集していくような活動もあります。いずれにしても、「滋賀の美」のプロフェッショナルたち。その活動内容についてまとめました。

郷土ゆかりの作家作品や現代美術、地域社会の中で守られてきた神仏の美、滋賀の人と地域が生み出したアール・ブリュット…と数ある滋賀の「美」の魅力を県内外に発信することで、県民の住み心地を向上させることを目指しています。

「美の滋賀」とは？



## 音羽流滋賀邦舞研究会

代表：音羽菊寿寿  
拠点：大津市



師籍45年となる音羽菊寿寿が代表を務める、音羽流滋賀邦舞研究会。採択された事業では、若い世代が指導者になるまで続けていけるよう、舞台の面白さをより知ってもらおうと滋賀県青少年和の舞団「翼」を結成。「羽ばたけ！近江っ子」をスローガンに、ただ舞台上で観客を待つのではなく、踊りの場を求めて表に飛び出すようにと複数のイベントや祭りなどに出演活動を行った。1月末には大津市伝統芸能会館で最終発表会を開催。

## 特定非営利活動法人 滋賀ものづくりネット

代表：浦谷誠人  
拠点：守山市



「滋賀の作家の作品をたくさんの人たちに見てもらえる場所を」と2006年に栗東市で始まり、現在は草津市で行われる「滋賀がいいもん市」、竜王市の「ものづくり教室」など、毎月県内でイベントを開催している。採択された事業では、滋賀県の「子ども遊び」を伝えるワークショップをイベント内で開催。滋賀の昔話をモチーフにした紙芝居、琵琶湖のヨシを使ったヨシ笛づくりワークショップなどを行った。

## 信楽陶匠会

代表：大谷無限  
拠点：甲賀市信楽町



2009年に結成された、陶芸作家によるグループ。現在メンバーは6名。信楽に古くから受け継がれる薪による焼成を核に、世界に向けて信楽焼を発信する。今年度は11月に「信楽国際野焼きフェスティバル2015」を開催。陶芸の面白さ、創作活動の喜びを次の世代に伝える企画として、甲賀市・雲井保育園などの園児たちとお面をつくる作陶ワークショップを行い、海外より陶芸家・ブルース・デナート氏を招いて、野焼きを行った。

## 特定非営利活動法人 絵本による街づくりの会

代表：平松成美  
拠点：高島市マキノ町



県内ゆかりの絵本作家の原画展や講演会、ワークショップなどを開催しながら、子どもとその家族が集まる「里山の小さな絵本美術館」の開館と、その先にある街の活性化を目指して活動を続けている。今年度は、拠点とするペンションマキノの体育館を美術館に見立てて、「永島正人クレパス画展」「市居みか絵本原画展」「今関信子講演会」「松居直和写真展」などを開催。ペンションマキノ閉館のため、次年度以降は新たな拠点づくりを模索。



## 信楽まちづくりLab

代表：今井智一  
拠点：甲賀市信楽町



食とアートを切り口に、「土と手」から生み出される美を発信。今年度は、商店街の中心部にありながら空き店舗となっていた「藤喜陶苑」をリノベーションして拠点に。その広場を活用して、信楽の若手作家によるかまどを使った「おくど飯」のふるまいや滋賀県立大学と協働した「信楽の未来像を描くワークショップ」、街なかを舞台に14人の陶芸作家とアール・ブリュット作品を展示した「SHIGARAKI INSPIRATION展」を開催。

## おうみ映像ラボ

代表：長岡野亜  
拠点：京都市



滋賀の伝統行事や生活記録が収められた記録映像をテーマに、滋賀県各地で情報収集、情報発信、見聞会、遠足、上映会を行う。今年度は、高島市朽木古屋に伝わる六斎念仏踊りなどの記録映像の上映とお話し会「高島の夏 迎え方・送り方」、「甲賀前挽鋸」の映像上映と元・木挽職人の実演や学芸員のお話を聞くなどした遠足「甲賀の木挽に会いに行こう」、一般の家庭から提供された、滋賀県内で昭和30～50年代に撮影された8ミリフィルムの上映会を開催。

## 特定非営利活動法人 芸術村IN余呉実行委員会

代表：中山克己 拠点：長浜市余呉町

“地域全体を芸術広場に”を合言葉に、地域の寺院や古民家などに作品を展示して、暮らしの中にある芸術を楽しむイベントを開催。今年度は、旧余呉小学校をメイン会場に、町内のべんがら座、余呉小劇場 弥吉、全長寺、ウッディパル余呉、旧丹生小学校、茶わん祭の館、余呉湖畔をその他会場として、数々の展示とステージイベント、ワークショップを約1週間に渡って展開。旧余呉小学校では、「世界の子ども絵展」や「アール・ブリュット企画展」も開催された。



## 湖北アール・ブリュット展 推進会議

代表：廣部猛司 拠点：長浜市

2011年から毎秋、長浜市で「湖北のアール・ブリュット展」を開催するとともに、湖北地域の障害者による作品を広く集め、作家を育てることを目的として活動。今年度は、展覧会と同時期に「まちなかArt Brut」と題して、店の軒先やオープンスペースなどを使った展示も展開。また、「芸術村IN余呉」に会場を借りて、障害者によるオープンな場での陶芸ワークショップを実現。十里街道生活工芸館「テオリア」での障害者を対象とした創作工房も行った。



## 彦根仏壇 事業協同組合

彦根の七曲がり街道には、「工部七職」として分業体制を確立した仏壇職人の工房や仏壇店が立ち並んでいる。その七曲がりの町並みを会場とした「七曲がりフェスタ」は、今年度で第3回目の開催。3日間の会期で「七曲がり彦根仏壇展・仏壇博物館」などの展示や、工部七職による実演や体験の機会が設けられた。また、初日夕刻からは「夜宮」として、ろうそくを使って街道をライトアップ、古民家や伝統的建造物の残る町並みの魅力を引き出した。

## 特定非営利活動法人 コミュニティ・アーキテクトネットワーク

代表：辻村琴美  
拠点：彦根市



滋賀の各地に出向いて、講義とフィールド見学を通して、滋賀の「ほんまもん」を感じる事業を実施。今年度は「ふるさと深い学び塾」と題して、高島市マキノ町では濱崎一志（滋賀県立大学副学長）、長浜市高月町では井上ひろみ（滋賀県立琵琶湖文化館）、大津市では樋爪修（大津市歴史博物館館長）、近江八幡市沖島では大沼芳幸（滋賀県立文化財保護協会）を講師に迎え全4回開催。その後、中井均（滋賀県立大学教授）を迎えた報告交流会も開催。

理事長：宮川孝昭  
拠点：彦根市



## 近江の祭り研究所

代表：辻村耕司  
拠点：野洲市

滋賀の祭りをテーマにして、各地で祭りの現場を撮影した写真や祭礼具の展示とともに、図録の制作、ウェブ上でのアーカイブ作成を目指す。今年度は「祭りを彩るデザイン vol.1 守山市」として、守山宿・町家「うの家」での展覧会を実現。守山市内に伝わる小津神社の長刀まつり、下新川神社のすし切り祭、馬路石邊神社の豊年踊りにまつわる祭礼具や装束、写真、映像を一堂に展示するとともに、図録も制作された。



## 特定非営利活動法人 エナジーフィールド

代表：中田洋子  
拠点：近江八幡市



近江八幡旧市街地に残る空き町家や瓦工場などを活用した「BIWAKOビエンナーレ」を隔年で開催。今年度は、八幡堀に面した活動拠点「天籟宮」を使ってシンポジウム、ワークショップ、茶会などを行うとともに、「ニュー・ブランシュ KYOTO」「和歌山サローネ」など、他府県でのアートイベントと連携して滋賀のアーティストの作品展示や茶会を行った。「BIWAKOビエンナーレ」は2016年の開催が決定している。

## 成安造形大学

拠点：大津市

隠れた滋賀のブランド力にスポットを当て、新たな滋賀の魅力を県内外に発信する展覧会を開催。今年度は、毎秋に開催している総合芸術祭「セイアンアーツアテンション」において「MUSUBU SHIGA 空想 MUSEUM」と題した展覧会を開催。大学附属の「近江学研究所」や滋賀県のプロジェクト「MUSUBU SHIGA」とも連携しながら、未来へつないでゆくべき滋賀のカタチを見出して提示、プロジェクト授業を通じた学生たちのリサーチも反映された。

